

# サン = シモンの ペルゴー宛てとりウエ宛て自筆書簡

川 又 祐

- 1 はじめに
- 2 サン = シモンの生涯
- 3 ペルゴー宛て書簡とりウエ宛て書簡
- 4 おわりに

## 1 はじめに

筆者は現在、日本大学図書館法学部分館（以下、本図書館）に所蔵されている貴重書の整理作業に従事している。本図書館は、いくつかの重要なコレクションを所蔵しているが、中でもフランスの社会主義思想家クロード・アンリ・ドゥ・ルーヴロワ、サン = シモン伯爵（Claude Henri de Rouvroy, Comte de Saint-Simon. 1760-1825）のコレクションは本館にとって最も重要なコレクションの1つである。このサン = シモン・コレクションは、

- ①サン = シモンの著作および、サン = シモン、サンシモニアン、サンシモニズムに関する著作。
- ②サン = シモン（あるいは彼の秘書など）によって書かれた草稿（筆写を含む）。
- ③サンシモニアンのリトグラフ。
- ④補遺。

から構成されている。当該コレクションは、本図書館における整理作業がついに完了した。当該コレクションは、サン＝シモン研究の貴重な資料を含んでいる。そのため本図書館がサン＝シモン研究の新たな拠点となる可能性を持っている。その意味でも、当該コレクションの今後の利用によって、その学術的価値とその重要性が明らかにされるであろう。このコレクションには、サン＝シモン自筆の書簡3通が含まれている。これら3通は、リウエ (Citoyen Rihouet)、デュボア (Dubois) そしてブーゴン (Charles Bougon) に宛てたものである。3通は、本図書館ウェブサイトですでに公開されている<sup>(1)</sup>。

筆者は今般、幸運にもサン＝シモンの自筆書簡を2通入手することができた。1通はペルゴー宛て、もう1通はリウエ宛てである。サン＝シモンの生涯および彼の著作や書簡類は、森博『サン＝シモン著作集』や、グランジュ教授 (Juliette Grange) らの『サン＝シモン全集』によってこれまで紹介されている。しかしながら、これら2通は未公刊で、彼らの研究でも紹介されていない。本稿では、封緘方法も再現しながら、これらサン＝シモンの新資料を取り上げる。

筆者は、リチャード・M. フォード社 (Richard M Ford Ltd.) からこれら2通を入手した。私からの入手経緯に関する照会に対して、リチャード氏は、「私は、サン＝シモンの書簡を、昨年 [2018年] のチズウィック・オークションで購入した。それらは、ホートン卿 [リチャード・モンクトン・ミルنز] のコレクションのうちの自筆書簡を含む大きなロットの中にあつたものである」“I bought the Saint-Simon letters at Chiswick Auctions last year. They were in a large lot containing autograph letters from the collection of Lord Houghton (Richard Monckton Milnes)”と回答してきた。さらにリチャード氏は、書簡の仏語翻刻と英訳文を提供してくれた。本稿をまとめるにあたって、これら翻刻と英訳文を利用しつつ、仏語翻刻・和訳にあたって日本大学法学部の江島泰子教授からも貴重な助言をいただいた。両者に対してここに心から感謝の念を表記したい。もとより、翻刻・翻訳をはじめとす

る本稿の最終的責任は筆者に属している。

## 2 サン＝シモンの生涯

サン＝シモンの生涯をここで簡単に確認しておこう（森、p.363以下）。サン＝シモンは、1760年10月17日、貴族の家庭に生まれた。父は、バルタザール＝アンリ・ドゥ・サン＝シモン（Balthazard-Henri de Saint-Simon.1721-1783）、母は、ブランシュ・エリザベト・ドゥ・ルーヴロア・ドゥ・サン＝シモン（Blanche Elisabeth de Rouvroy de Saint Simon.1737-?）である。彼の一族には、ルイ14世宮殿の『回想録』（*Mémoires*）で有名なサン＝シモン公爵（Louis de Rouvroy de Saint-Simon.1675-1755）がいる。

サン＝シモンは、17歳の時、兵役に就いている。イギリスからの独立戦争時、アメリカ植民地を救援するため、彼はフランスによって派遣された連隊に加わり、1781年、ヨークタウンの戦いに参加した。彼は砲兵隊の指揮官を務めた。

サン＝シモンは、1783年末にフランスに帰国する。そして1784年に退役する。フランス革命中、彼は、革命家として活動した。その一方、革命政府によって国有化された土地を、1790年以降、友人レーデルン伯爵（Graf Sigismund Ehrenreich Johann von Redern. 1761-1841）<sup>(2)</sup>とともに購入・売却した（森、p.6）。彼らは、この土地売買（不動産投機）により、莫大な資産を形成することに成功した。恐怖政治が展開される中、サン＝シモンは1793年11月19日、パリで逮捕され、パリのサン・ペラジー獄に投じられた。そして1794年5月、リュクサンブール獄に移される。しかし恐怖政治の終焉により、彼はからくも刑を免れ、8月28日牢獄から解放される。

サン＝シモンは、解放後もレーデルンと不動産投機を続ける一方で、放蕩な生活を送る。そのため彼は困窮状態に陥る。レーデルンはそうしたサン＝シモンとの関係を断つことを決断し、両者は事業協同関係

に終止符を打つ。1799年8月4日公証人を立てて両者は証書を取り交わす。これにより、両者の利害関係は一切消滅し、以後いかなる異議申し立てもしないことが決まり、サン＝シモンは15万フランを受け取る。しかしその後、サン＝シモンは2人の間の財産配分に不満を抱き、レーデルンと対立する。

対立は解消されず、事態は悪化していく。しかしながら、サン＝シモンは科学の道に進み、数多くの著作を公刊する。それでも貧困生活は改善されなかった。1823年3月9日失望に襲われたサン＝シモンは、拳銃自殺を図った。彼は、片目を失うものの一命は取り留めた。そして1825年5月19日に亡くなる。彼は、パリのペール・ラシェーズ墓地 (Père-Lachaise) に埋葬された。彼は、軍人、投機家、革命家、そして思想家という多面的な人生を過ごした。彼の思想は、アンファンタン (Barthélemy Prosper Enfantin. 1796-1864) からサンシモニアンに受け継がれていくのである<sup>(3)</sup>。

### 3 ペルゴー宛て書簡とリウエ宛て書簡

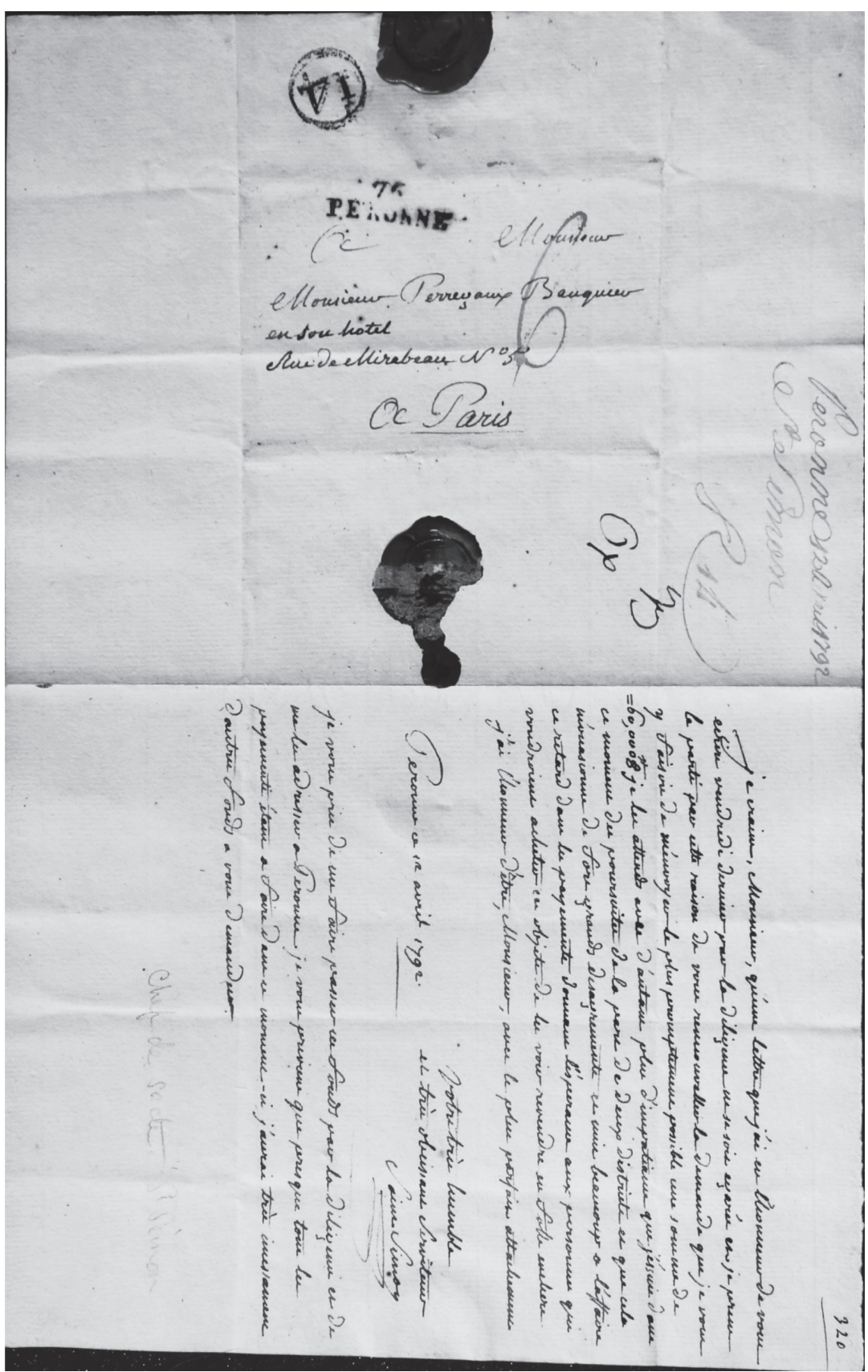
#### (1) サン＝シモンのペルゴー宛て書簡

サン＝シモンのペルゴー宛て書簡の画像と書誌は図1と表1に示している。

図1と表1に従って、書簡の外観を見てみよう。書簡は一葉の紙葉でできている。紙葉は縦に二つ折りされている。図1のように、表面半分にそれぞれ宛名と本文が記載されている。裏面は白紙である。

紙葉の折り目を書簡に投影したものが図2であり、折り目の順番を示したものが図3である。本紙は5回折られたことにより、18分割されている。そしてそれとは別に、二つ折りをさらに縦に二つ折りしている (実線部分が4等分されたその折り目)。

図1 サン = シモンのペルゴー宛て書簡画像



日本法學 第八十五卷第四号 (二〇二〇年三月)

五〇六 (一四三二)

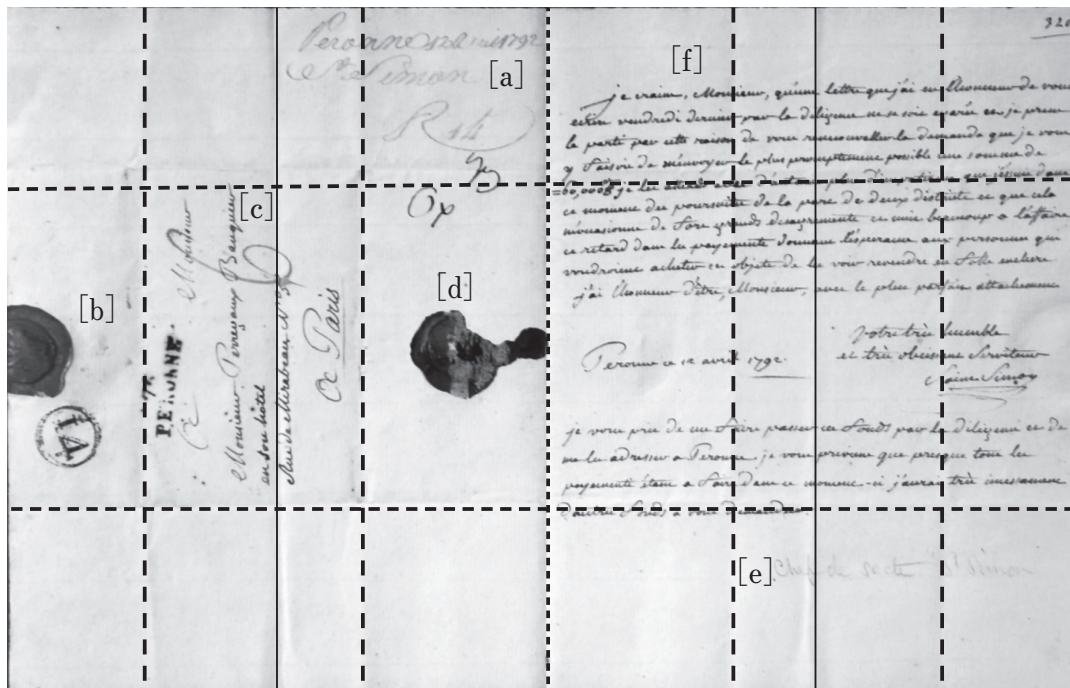


表1 サン = シモンのペルゴー宛て書簡書誌

Title	[Letter, le 12 Avril 1792] A Monsieur. Monsieur Perregaux Banquier
Author	Saint-Simon
Created	Peronne
Year	1792
Medium	1sheet ([1] p.) ; 20 × 31.4 cm. folded 20 × 15.7 cm Address : 6.3 × 9.8 cm (5 times folded) <div data-bbox="855 521 1327 831" data-label="Image"> </div>
Notes	Holograph signed Paper watermarked Watermark : D&CB <sub>LAUW</sub> (4) Stamp : 75 [?] PERONNE [black] Sealing wax : SSS [?] [red] <div data-bbox="1050 853 1286 1115" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">破れた封蝋の画像を合成</p>

サン＝シモンのペルゴー宛てとりウエ宛て自筆書簡（川又）

図2 サン = シモンのペルゴー宛て書簡の折り目

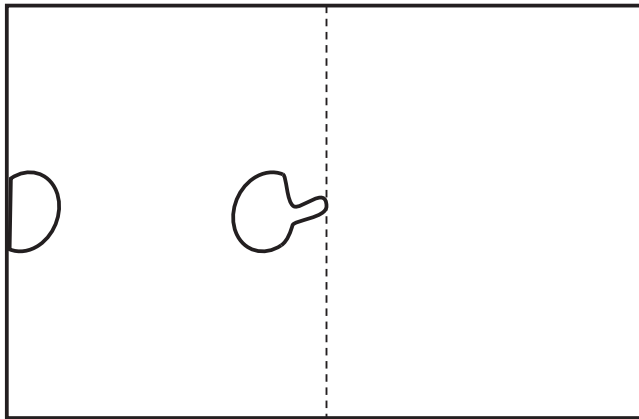


※図2には便宜的に [a] から [f] の記号をつけている。

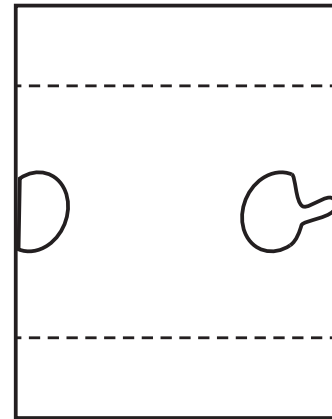
五〇五（一四二一）

図3 サン = シモンのペルゴー宛て書簡の折り順

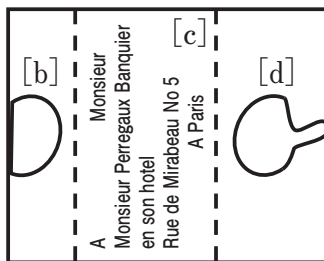
①紙葉左側：宛名、右側：本文  
点線を山折り1回



②紙葉半面上部、下部  
点線2か所を山折り

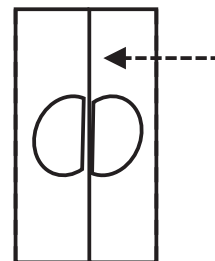
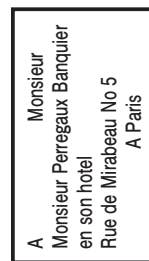


③左側と右側  
点線2か所を山折り

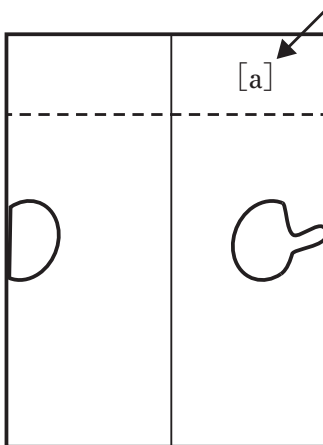


表面 = 宛名面 裏面 (封蝋)

左側に右側を折り込み、挿み込んで封蝋



④開封後、実線を山折り1回 サン = シモンとは異なる筆跡の書き込み



※図3中の [a] から [d] の記号は図2の記号に対応している。

図2につけられた記号に従い、そこに記載されている内容を検討する。

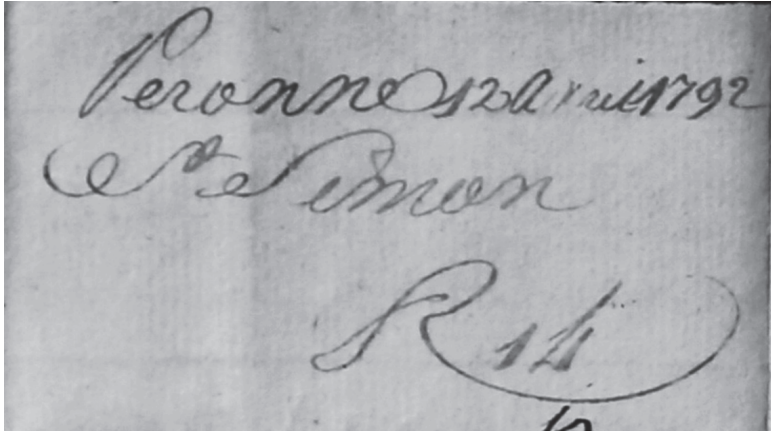
8

[a] サン = シモンとは異なる筆跡による書き込み

Peronne 12 Avril 1792

St-Simon

R 14



[b] 封蝋上半分、消印



SSS [?]

⑭

[c] 消印、宛名

75

PERONNE

6 (記号? 赤インク)

A Monsieur

Monsieur Perregaux Banquier

en son hotel

Rue de Mirabeau No 5

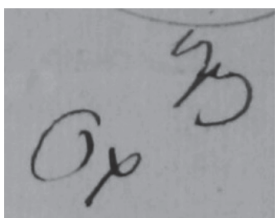
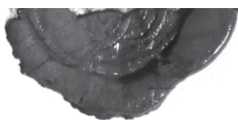
A Paris<sup>(5)</sup>

サン＝シモンのペルゴ宛てとりウエ宛て自筆書簡(川又)

五〇三(一四一九)



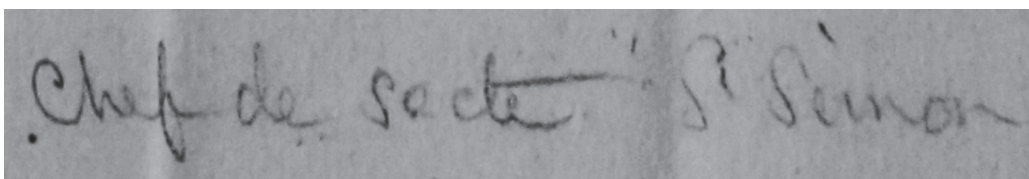
[d] 封蝋下半分、文字（記号？、2か所）



文字はそれぞれ不明

[e] サン = シモンとは異なる筆跡による書き込み（鉛筆）

Chef de secte S<sup>t</sup> Simon



[f] 書簡本文（仏語翻刻）

320<sup>(5)</sup>

je crains, Monsieur, qu'une lettre que j'ai eu l'honneur de vous  
 écrire vendredi dernier par la diligence ne se soit égarée et je prend  
 [sic. prend ?]

le parti par cette raison de vous renouveler [sic. renouveler ?] la  
 demande que je vous

y faisais de m'envoyer le plus promptement possible une somme de  
 =60,000 ff[?] je les attends avec d'autant plus d'impatience que j'essuie  
 dans

ce moment des poursuites de la part de deux districts et que cela  
 m'occasionne de fort grands desagremens et nuie beaucoup a l'affaire  
 ce retard dans les payements donnant l'esperance aux personnes qui

voudroient acheter ces objets de les voir revendre en folle enchere  
j'ai l'honneur d'être, Monsieur, avec le plus parfait attachement

Peronne ce 12 avril 1792<sup>(5)</sup>.

Votre très humble  
et très obeissant Serviteur  
Saint Simon<sup>(6)</sup>

je vous prie de me faire passer ces fonds par la diligence et de  
me les adresser a Peronne. je vous previens que presque tous les  
payements étant a faire dans ce moment-ci j'aurais très incessamment  
d'autre fonds a vous demander.

本文和訳

「私は、先の金曜日、馬車であなた様にご送付させていただいた書簡が行方不明になったのではと恐れる次第です。そのため、その書簡の中でご依頼申し上げたことですが、可能な限りすみやかに60,000（フラン？）を私にお送りいただけますよう重ねてお願いいたします。私はこのお金を、とても首を長くして待っております。私は現在、二つの地区から訴えを提起されております。これらは私にとってとても面倒事となっております。そして支払いの遅れは、これらの物件を購入し、そしてそれらを再びいかさまの入札で売却しようとする人物たちに希望を与えてしまい、解決を損ないます。この上ない愛情をこめて。

あなた様の極めて謙虚で

ペロンヌ 1792年4月12日

極めて従順なしもべ

サン シモン

これらの資金を馬車で私にお送りくださり、それらをペロンヌの私宛てにしてくださるようお頼みいたします。これらの支払いのほと

んどをすぐに行う必要がありますので、私は一連の資金要請をあなたにさせていただくことをお伝えいたします。』

1792年当時、サン＝シモンは、パリの北北東およそ130キロに位置するペロンヌに居住していた（サン＝シモンのペロンヌにおける住所は不明）<sup>(7)</sup>。ペロンヌは、サン＝シモン家の所領である。この1792年4月12日付書簡は、このペロンヌから発信された。宛名人は、ジャン・フレデリック・ペルゴー（Jean-Frédéric Perregaux, 1744-1808）<sup>(8)</sup>である。1791年、レーデルンは自身が保有していた公債の処分をペルゴーに任せ、現金化している（森、p.357. 訳注105）。これを元手に不動産投機が行われる。従って、サン＝シモンとレーデルンそしてペルゴー三者の関係は、1791年には始まっていたと思われる。そして2人の不動産投機を支えたのがペルゴーである。サン＝シモンとペルゴーは頻繁に連絡を取り合っていた<sup>(9)</sup>。この書簡の「先の金曜日、・・・書簡」、「一連の資金要請」という記載から、サン＝シモンが60000（フラン？）もの資金提供（不動産購入費あるいは裁判費用か）を複数回にわたって依頼するほど、ペルゴーと親密な関係にあったことが明らかとなる。さらに書簡の最後を「あなた様の極めて謙虚で極めて従順なしもべ」で結んでいることから、サン＝シモンのペルゴーに対する敬意が表れている。この書簡による要請に応じて、実際にペルゴーが資金を提供したのかは不明である。

## (2) サン＝シモンのリウエ宛て書簡

サン＝シモンのペルゴー宛て書簡の画像と書誌は図4と表2に示している。

図4と表2に従って、書簡の外観を確認する。書簡は一葉の紙葉でできている。一葉は縦に二つ折りされている。図4は本書簡の画像である。書簡の表面半分にそれぞれ宛名と本文が記載されている。裏面は白紙である。





表2 サン = シモンのリウエ宛て書簡書誌

Title	[Letter, le 23. f [loré] al. an 7] Au Citoyen Rihouet
Author	Saint-Simon
Created	s.l.
Year	le 23. f [loré] al. an 7 [1799 May 12.]
Medium	1sheet ([1] p.) ; 18.4 × 24 cm. folded 18.4 × 12 cm Address : 7.3 × 12 cm (3 times folded)
Notes	Holograph signed Paper watermarked Watermark : Lily <sup>(10)</sup>

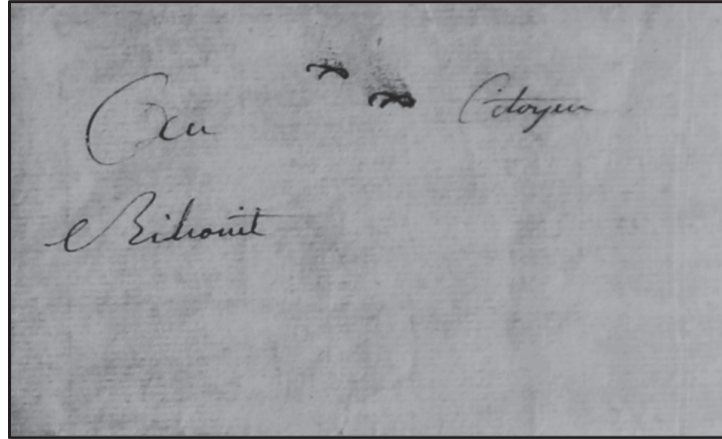
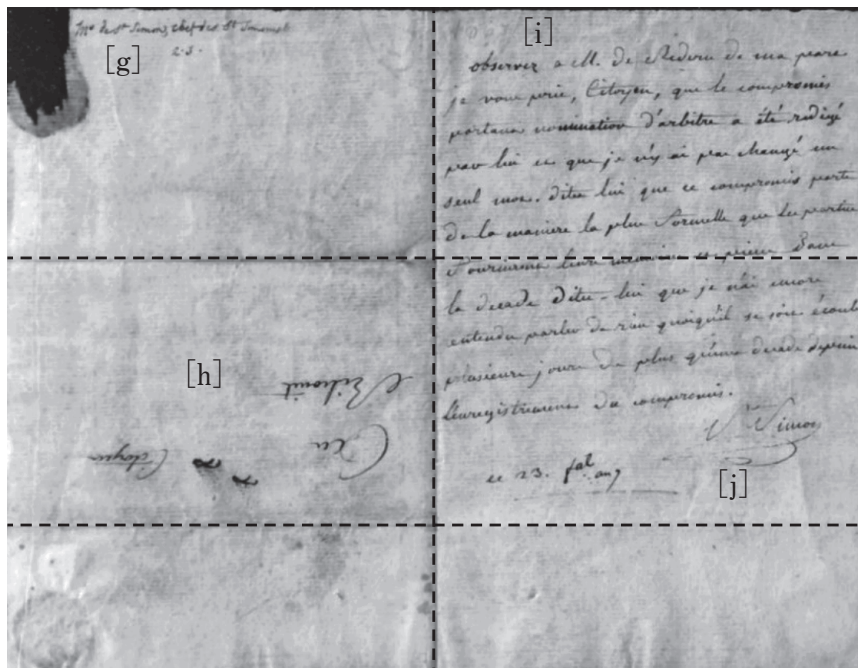


図5 サン = シモンのリウエ宛て書簡の折り目



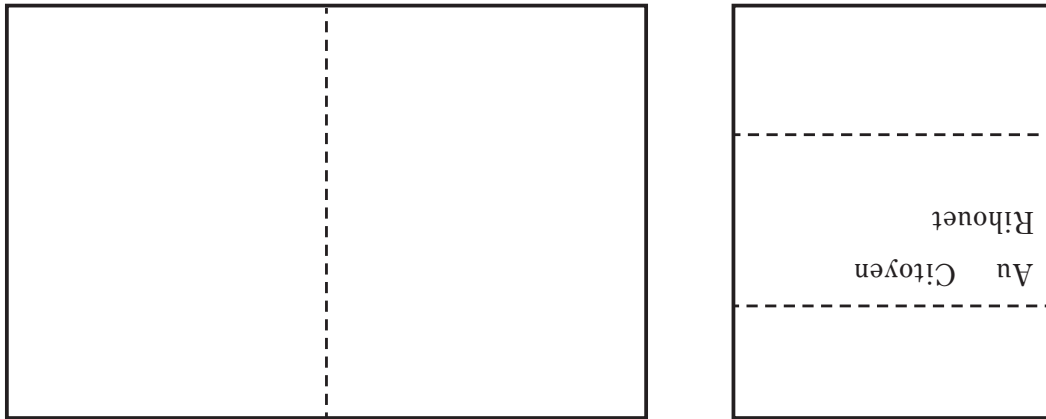
※図5には便宜的に [g] から [j] の記号をつけている。



図6 サン = シモンのリウエ宛て書簡の折り順

①紙葉左側：宛名 右側：本文  
点線山折り1回

②宛名面  
点線山折り2回



表面=宛名

裏面 1枚めくった左側に右側を折り込み、挟み込んで、内側で糊付け（糊付け部分は開封の際に破損）

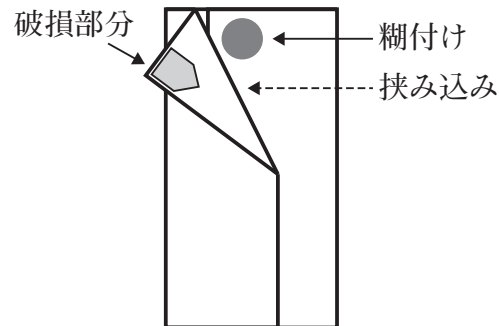
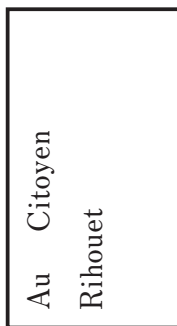
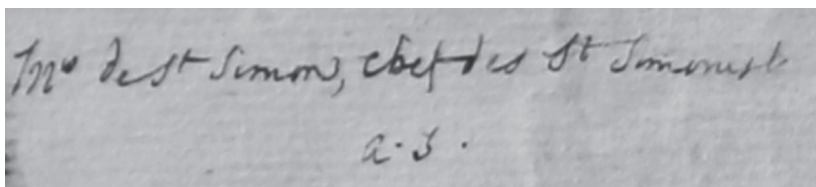


図5につけられた記号に従い、そこに記載されている内容を検討する。

[g] サン = シモンとは異なる筆跡による書き込み

M<sup>r</sup> de S<sup>t</sup>-Simon, chef des S<sup>t</sup>-Simonists

A. J. [書き込んだ人物のイニシャルか]



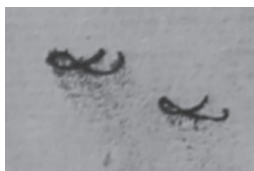
サン＝シモンのペルゴ宛てとりウエ宛て自筆書簡（川又）

四九七（二四一三）

## [h] 宛名と、文字 (2か所)

Au Citoyen

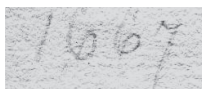
Rihouet



文字はそれぞれ不明

## [i] 鉛筆によるかすかな書き込み (筆者不明)

1667



## [j] 書簡本文 (仏語翻刻)

observez a M. de Redern de ma part  
 je vous prie, Citoyen, que le compromis  
 portant nomination d'arbitre a été redigé  
 par lui et que je n'y ai pas changé un  
 seul mot. dites lui que ce compromis porte  
 de la maniere la plus formelle que les parties  
 fourniront leurs memoires et prieres dans  
 la decade dites-lui que je n'ai encore  
 entendu parler de rien quoiqu'il se sois écoulé  
 plusieurs jours de plus qu'une decade depuis  
 l'enregistrement du compromis.

St-Simon<sup>(6)</sup>

le 23. f[loré]<sup>al</sup> an 7<sup>(5)</sup>

本文和訳

「市民リウエ殿。調停者の任命が記された契約はレーデルン氏に

よって行われたこと、そして私は一語も変更していなかったことをレーデルン氏にご確認ください。契約はきわめて公式なかたちで、当事者たちが自分たちの申し立てや要望を10日以内に提示すべきと定めていることをレーデルン氏にお伝えください。また、契約が登録されて以降10日を数日過ぎているという事実にもかかわらず、私はその件について何も聞かされていないことをレーデルン氏にお伝えください。

サン＝シモン

革命歴7年花月23日

(1799年5月12日)』

本書簡には封蝋は使用されておらず、糊で封緘されている。宛名人は、レーデルン伯爵の代理人を務めたリウエ (Philippe François Bonaventure Rihouet. 1755-1833<sup>(11)</sup>) である。リウエは、オルレアン公爵夫人領地管理人でもあった。

サン＝シモンとレーデルンとの事業協同関係は、1799年8月4日に終止符が打たれている (森, p.379)。本書簡では、「調停者」に言及があるので、もしかしたら彼ら2人は、すでに事業協同関係の整理に着手していて、本書簡は、その「調停者」に関する契約などについてサン＝シモンがリウエを通じてレーデルンに事実確認を求めたものかもしれない。サン＝シモンは、レーデルンと文書を直接やり取りすることはせず、リウエを介した交渉を行っていたことになる。ペルゴー宛て書簡と比べると、結び言葉がなく、簡略的、事務的な書簡となっている。

#### 4 おわりに

サン＝シモンに対する関心は、今もって衰えることはない。それは続々と刊行される関連書の存在によって証明される (cf. Musso. 訳書。あるいは中嶋)。サン＝シモンは非常に多くの草稿、書簡を遺している。

これらはサン＝シモンの生涯、思想形成を明らかにするうえで有力な資料となる。すなわち、サン＝シモンは自伝を著しているが、そこに記載されていない事実、明らかにされていない間隙があることも周知の事実である。そうした間隙を埋めるのにも役立つのが今回の2通の書簡なのである。これらの書簡によって、サン＝シモンが1792年4月、ペルギーに資金援助の要請を複数回している事実、そしてサン＝シモンが1799年5月、直接レーデルンとではなく、彼の代理人リウエと何らかの交渉をしていた事実が明らかとなった。また、書簡によってサン＝シモンは、紙葉の折り方や封の仕方（封蝋あるいは糊）を変えていたことが判明する。

今後は、サン＝シモンが遺した書簡類の比較研究が課題となるであろう。書簡の翻刻や、今回行った封緘方法の再現をはじめとして、書簡の宛名人、発信日、発信地、使用されている紙葉およびそのウォーターマーク、封蝋の調査によって、サン＝シモンの交友関係、交際範囲も明らかにすることが可能である。またそれによってサン＝シモンの生涯を時系列に再現することもできるであろう。国内外に存在しているサン＝シモンの書簡の所在先、所蔵先の確認が重要である。今後の調査、研究に期待したい。

## 注

- (1) 本図書館が所蔵しているのは、  
 S-S 345 [Letter, 1802 March 13, to] Citoyen Rihouet / Saint-Simon  
 S-S 346 [Letter, ca. 1808-1810, to] M. Dubois / Saint-Simon  
 S-S 362 [Letter, ca. 1813, to Dr. Charles Bougon / Saint-Simon]  
 の3点である。3点は以下のページで閲覧が可能である。  
<https://www.law.nihon-u.ac.jp/library/collectionpack/saint-simon/index.html>
- (2) レーデルンの生涯については、フリートレンダー (Friedlaender) や『サン＝シモン全集』第一巻 (pp.462-464) を参照せよ。レーデルンの生年については、1755年の記載もある (森、p.138 (403))。ここでは1761年と記載する。

- (3) 本図書館のサン＝シモン・コレクションには、アンファンタンやサンシモニアンに関する資料も多数含まれている。
- (4) 本紙のウォーターマーク“D&CB<sub>LAUW</sub>”は、本図書館が所蔵する S-S 354 [Note on the 18th. century philosopher, Condorcet / Saint-Simon] のウォーターマークと同じである。
- (5) これら3か所には下線が引かれている。なお「320」は、整理番号として後世の誰かが書き込んだと思われる。
- (6) サン＝シモンの自署は、Saint Simon と St-Simon の2つがあることがわかる。
- (7) 森の記載によれば、サン＝シモンの父はソンヌ県ペロンヌ、ファルヴィ村の領主で、ベルニィ丘腹に城館を持っていたとある（森、p.365, 367）。
- (8) ペルゴーの生涯については、柏木を参照せよ。
- (9) 本図書館が所蔵するサン＝シモンのペルゴー宛て書簡（筆写）は、  
S-S 401 [Letter, 1809 to Jean-Frédéric Perregaux] / St. Simon  
S-S 402 [Letter, 1793 September 5, Peronne, to Jean-Frédéric Perregaux] / Saint Simon  
S-S 405 [Letter (excerpt), 1804 December 6 to Jean-Frédéric Perregaux] / [Saint-Simon]  
S-S 408 [Letter, 1792 September 16, Peronne, to] Monsieur [Jean-Frédéric] Perregaux / Saint Simon  
S-S 411 [Notes summarising the 9 letters of Saint-Simon]  
である。  
このうち、S-S 402 と S-S 408 のペルゴーの住所は、「パリ、彼のホテル、ミラボー通り5」であり、1792年4月、9月、1793年9月の時点で、ペルゴーの住所に変更はない。
- (10) 紙葉のウォーターマークは、円の中にユリが描かれているデザインである。紙葉がちょうどウォーターマークの途中で裁断されているために、その下半分はない。



ユリのウォーターマーク（筆者が模写）

- (11) リウエの経歴、生涯については不明である。簡単な経歴であれば、次のものを参照せよ。  
[https://data.bnf.fr/fr/16725254/philippe\\_francois\\_bonaventure\\_rihouet/](https://data.bnf.fr/fr/16725254/philippe_francois_bonaventure_rihouet/)



## 参考文献

- 柏木治『銀行家たちのロマン主義～一九世紀フランスの文芸とホモ・エコノミクス～』関西大学出版部、第3章53-80頁、2019年。
- 中嶋洋平『サン＝シモンとは何者か 科学、産業、そしてヨーロッパ』吉田書店、2018年。
- 森博編・訳『サン＝シモン著作集』第一巻、恒星社厚生閣、1987年。
- Friedlaender, Ernst, “Redern : Sigismund Ehrenreich Graf v. R.” in : *Allgemeine Deutsche Biographie*. Leipzig, Verlag von Duncker & Humblot. 27. Bd. 1888. pp.521-522.  
<https://www.deutsche-biographie.de/sfz75809.html#adbcontent>
- Musso, Pierre, *Saint-Simon et le saint-simonisme. Que sais-je?* Presses Universitaires de France. 1999. ピエール・ミュッソ著、杉本隆司訳『サン＝シモンとサン＝シモン主義【文庫クセジュ】』白水社、2019年。
- Saint-Simon, Henri, *Œuvres complètes* /; édition critique présentée, établie et annotée par Juliette Grange et al. vol.1. Presses universitaires de France. 2012. (『サン＝シモン全集』と略記)

## Saint-Simon.

Two Autograph Letters signed to Perregaux and to Rihouet.

KAWAMATA Hiroshi

Claude Henri de Saint-Simon (1760-1825) is a very famous social thinker of 18th to 19th century. I have got Saint-Simon's two autograph letters signed to Jean-Frédéric Perregaux (1744-1808) and to Philippe François Bonaventure Rihouet (1755-1833). The letter to Perregaux is dated “le 12 Avril 1792.” The letter to Rihouet is dated “le 23. f[loré]al. an 7 (May 12, 1799).” Saint-Simon together with Sigismund Ehrenreich Johann von Redern (1761-1841) bought and sold land quite profitably. Perregaux was a cooperator of their land speculation. Rihouet was an agent of Redern. The two letters are interesting and valuable for the research on Saint-Simon.

